

(別添3)

**【高取町】
校務DX計画**

1. 教育DXを推進するための課題と解決策について

現状、高取町立学校において教育DXを推進するための課題は、以下のとおりです。

(1) 保護者と学校とのやりとり（提出資料、日程調整、保護者面談）のクラウド化

課題としては、保護者と学校がやりとりをクラウド上で実施するためには保護者側にもアカウントが必要となる点があります。

解決策としては、統合型校務支援システムをクラウドベースで導入し、保護者の参加を前提としてシステム利用を行うことが考えられます。

(2) 小テスト、定期テスト等のCBT化

課題としては、学校で使用している小テスト、定期テスト等は基本的に紙媒体を前提とした作りをしており、CBT化することが教職員の負担の増加につながる点があります。

解決策としては、インターネット上で活用できる学習教材を探す、デジタルドリルを活用するなど教職員自身が教材作成をしないようにすることが考えられます。

(3) 教職員から学校へ提出する事務手続のクラウド化

課題としては、教職員から学校へ提出する事務手続書類は、年末調整関係書類や年次有給休暇申請書類、特別休暇申請書類など現行の制度上紙での提出を求められるものが多い点があります。

解決策としては、年末調整、年休、特休申請などをオンライン上でできるように各制度を所管する部署が制度改正、システム整備をすることが考えられます。

(4) 業務上のFAX利用の原則廃止について

課題としては、現状、学校が外部事業者とやりとりする中に、卒業証書の印刷業務など一部事業者とFAXによるやり取りが残っている点があります。

解決策としては、学校から事業者に対してFAXによるやりとりからメールによるやりとりに移行してもらうよう依頼することが考えられます。

(5) 保護者、外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類について

課題としては、保護者から学校へ提出する書類のうち、一部に押印を必要とする書類（プール入水許可、進路希望調査票など）が残っている点があります。保護者による押印が、児童生徒のみの判断で書類が提出されることを防止している点が課題となっています。

解決策としては、統合型校務支援システムをクラウドベースで導入し、保護者の参加を前提としてシステム利用を行うことが考えられます。

2. 校務系ネットワーク・システム等の現状分析及び望ましい校務の在り方について

現状、高取町立学校におけるネットワーク構成は、令和4年度中にネットワーク機器更新を行った結果、学習系、校務外部系、校務系の三層分離になっています。この三層分離状態のネットワーク構成では、異なるネットワーク間のファイル移動に労力が掛かる、教職員の端末の複数台活用が必要になる等教職員にとって負担が大きい状況にあります。

そのため、多要素認証等セキュリティ対策をした上で、ゼロトラストアーキテクチャを用いたネットワーク環境へ移行し、学習系、校務外部系、校務系に分離していたデータをインターネット系に一本化することで、上記の問題点を解決できると考えます。